

## 清水PJ ミナトブンカサイ開催！

"Minato culture festival" held in Shimizu was a great success !



清水PJでは11月25日(日)に社会実験「ミナトブンカサイ」を開催しました。地元の方々の協力もあり、当日はたくさんの方がイベントに訪れ、倉庫街の魅力を楽しんで頂けたようです！PJメンバーのM1 萩原とM2 大森による開催報告です。

text\_kashiwabara



▲たくさんの方で賑わう倉庫前の通り



▲常葉学園大学の学生と子供達による路面アート



▲倉庫群をバックにしたステージでアカペラ演奏

## 清水港 日の出地区の魅力発信

text\_hagiwara

11月25日(日)、清水港日の出地区に現存する、昭和初期に建てられた石造倉庫群の前面道路を利用し、社会実験「ミナトブンカサイ」を行いました。

日の出地区は、港湾機能の低下とともに市民とのつながりが薄くなっていった地区ですが、石造倉庫や港湾らしい大空間など、面白い資源が残る場所でもあります。そこで、これから新たな地区の姿を描いていくに当たって、その魅力を市民に向けて発信したいという思いを出発点に「ミナトブンカサイ」は始まりました。

広くてまっすぐな臨港道路をキャンバ

スに常葉学園大の学生等が、子どもたちとともに大きな絵を描き、開放的なステージでは、地元大学生らが音楽やジャグリングで会場を盛り上げました。また、マルシェには地域から多くの魅力的な店舗が出店しました。加えて、清水PJのこれまでの研究成果を展示するブースを設け、来場者に港の歴史と可能性を伝えました。

日が落ちてからは、JAZZ演奏をBGMに、倉庫群のライトアップやキャンドルナイトにより、昼間とは違う落ち着いた港の魅力を来場者と共有できました。



▲ライトアップのもとでの東海大学 JAZZ 研究会による演奏会

## 社会実験を終えて...

text\_omori

昨年度から倉庫街を借りて何かイベントをしたいと、単純に思っていました。しかし許可が下りたのは今年の10月初旬で、たった2ヶ月で港らしいイベントとは何かを改めて練り直し、企画の詳細や広告戦略、誘導、スケジュールなどを組み、実施に邁進しました。毎週清水に通った2ヶ月は、本当にあっという間でした。今回は道路占用などの許可関係や物流事業者・役場・出店者・出演者との折衝など事務的な作業に追われ、都市デザイン研究室らしい展示はやや弱かったとも感じますが、1500人の市民の方に倉庫街の面白さを知ってもらえたのは本当に大きな成果です。広告デザインや芸術系の展示・ワークショップで活躍した常葉学園大学をはじめ様々な協力者も得られ、地元だけで十分な原動力を持っていることも分かりました。清水プロジェクトに捧げた2年間は充実したもので、改めて関係者の方には御礼申し上げたいと思います。

# "Road to Doctor"

An Essay by doctoral student vol.3!

人数の多い都市デザイン研究室。よりお互いの研究について知る機会を作ろう！ということで、博士課程のメンバーの研究内容に迫るコーナーです。第3回目はD3の松井さんです。

## 「歴史保全型まちづくり活動に対する行政関与の論理と手法に関する研究 —成熟期のまちづくり活動への応用を見据えて—

D3 松井 大輔

日本のまちづくり活動は、開発優先の都市計画に対抗する手段として、1960年代に発生しました。当初は対立することも少なくなかった住民と行政の関係ですが、まちづくり活動が自立的・包括的な活動へと進化していく中で行政の認識も少しずつ変化し、現在では両者の間に協力関係が築かれています。(もちろん例外はあります。)

しかし一方で、行政が過度に関与することで、まちづくり活動の自由度を阻害してしまう場合もあるのではないのでしょうか。この認識を原点とし、果たして行政はまちづくり活動にどのような形で関与すべきなのか、大きく言ってしまえば市民参加論に対する「行政関与論」みたいなものを、歴史保全型まちづくりを事例に考えていこうとしているのが私の博士論文です。

調査の過程では、資料を通して町並み保存運動を先導してきた先人たちの考えに触れる機会が多くあります。まるで、彼らから叱咤激励していただきながら研究しているような環境にいることに、感謝しつつも、気が引き締まる思いの毎日を送っています。少しでも先人の理想に近づけるように、一歩一歩、進んでいきたいと思っています。



▲研究の基礎は神楽坂などのPJ(2012年登録文化財シンポの様子)



▲分析資料のひとつ 1982年創刊の町並みかわる版



## プロジェクト報告

## 大槌PJ 赤浜集落 避難時の記憶をのこす

text\_kashiwabara

大槌PJでは大槌町赤浜集落を対象とした赤浜避難PJが行われ、東日本大震災当日の避難行動について、住民一人一人に対してのヒアリングを進めていきました。

11月24日(土)～11月25日(日)に、大槌PJメンバーと研究室有志数人の東大チーム8名で大槌町赤浜集落へ行って参りました。この赤浜避難PJは、赤浜の公民館長さんの、避難当時の記憶を残し後世に教訓として伝えたい、記憶を風化させたくない、といった思いを元とした依頼を受け、行われたものです。

メンバーの多くが初めての赤浜訪問だったこともあり、24日のうちに前日入りをし、まずは土地勘をつかむために赤浜のまちを歩いてまわりました。ヒアリングは25日に一日かけて行われました。現地の赤浜公民館の方と東大チームが2-3人ず



▲被災前の地図を手元に赤浜を歩きました

つで組になり、被災しなかった住宅や仮設住宅を一件ずつ訪問し、直接お話を聞いて回りました。住民の方にとっては決して進んで話したいことではないでしょうが、丁寧にヒ



▲多くの人が避難した津波避難所の空地

アリングに応じて頂き、また、現地の方と一緒に回ることで、学生だけでは詳しく聞けなかったらう話も聞くことができました。赤浜には12月中旬に再び訪問する予定です。

## Information

## 12月の予定

- 12月1日 大田PJ「Ota Open Factory」開催
- 12月5日 修士論文中間発表会
- 12月11日 第12回 研究室会議
- 12月12日 研究室忘年会  
鳳明館本館にて20時より開始!

## ★ 編集後記

柏原 葉那

最近めっきり寒くなり、体調を崩す方も多いのではないでしょうか。私はなんと急性胃腸炎になり、1日半の絶食を命じられていました…。原因は定かではないのですが、2日前に食べた生牡蠣ではないかとらんでいます。美味しくてもあの苦しさで1日半の絶食を思うと、もう生牡蠣は良いかなあという感じです。(赤浜帰りに発症してしまい、一緒に行った皆さんには大変ご心配をお掛けしました!) 忙しくなる年末、皆さんも健康にはお気をつけ下さい!